特集 災害に強い地域社会

やまなし
自治の風
Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.45 March.2019

contents

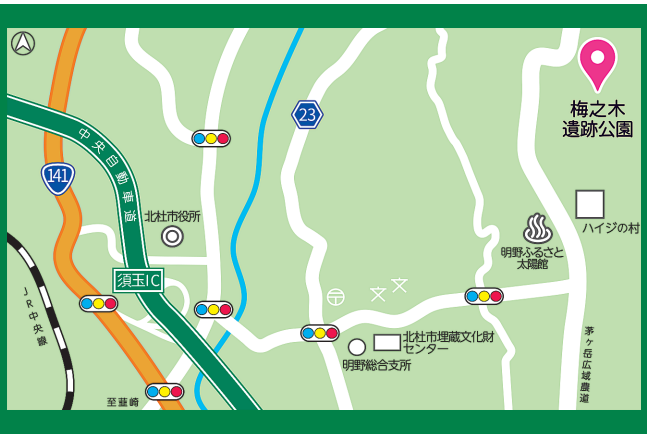
巻頭随想
市町村リレー まちづくり夢づくり
苦言提言
地域シンクタンク
市町村の元気印

machijiman

施設情報・史跡梅之木遺跡公園

山梨県北杜市明野町浅尾6315番地
史跡公園は常時見学可・無料
ガイダンス施設は、午前8時30分～午後5時まで開館・無料
月曜日、祝祭日の翌日、年末年始休館

お問い合わせ先
北杜市埋蔵文化財センター
〒408-0204　山梨県北杜市明野町上手8310
TEL／FAX　0551-25-2019(平日のみ)



シリーズ
ま・ち・自・慢

Hokuto-City
北杜市

史跡梅之木遺跡公園

VOL.45 March. 2019 machijiman

史跡梅之木遺跡公園は、今から5千年前の縄文時代中期の集落景観を再現した公園で、出土品を展示したガイダンス施設が併設されています。

梅之木遺跡は、北杜市明野町浅尾地区に所在します。明野町特産の浅尾ダイコンが栽培されていた畑地をほ場整備するために、平成15年に発掘調査したところ、竪穴住居約150軒からなる縄文時代集落が発見されました。

遺跡には住居群だけでなく、隣接する湯沢川沿いで石蒸し調理をした施設、湯沢川へ下る「縄文時代の道」も残されていました。集落と道、川べりの施設がセットでみつかることは大変めずらしく、平成26年3月18日に国史跡に指定され、平成30年5月に日本遺産に認定された「星降る中部高地の縄文世界」の構成文化財にも加えられました。

史跡公園には、縄文時代の住居2棟が復元されています。1棟は史跡公園整備事業で復元し、もう1棟は平成30年に市民ボランティアの手で復元しました。石斧づくりの体験学習からスタートし、石斧で建材を伐採、加工して復元してあります。

平成31年には3棟目の復元に挑戦します。ぜひ、ご参加ください。

やまなし
自治の風
Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.45 March.2019

Contents
Yamanashi JICHI no KAZE Vol.45 March.2019

まち自慢　北杜市

02 巻頭随想　心豊かに安心して暮らせる丹波山村の実現に向けて
丹波山村長　舩木 良教

04 市町村リレー　富士河口湖町

08 苦言提言　図書館が面白くなって来た! 自由な発想力で、アイデア勝負!
大月市立図書館館長
絵本作家、童話作家　仁科 幸子

09 特集「災害に強い地域社会」
10 特集1　地域防災力を向上させるために～地区防災計画の重要性～
12 特集2　災害に強い地域社会
14 特集3　災害に強い地域社会
16 特集4　逃げ遅れゼロを目指して　富士川町鰍沢中区上北地区防災計画
18 特集5　地域で守る地域の命

20 講演録

26 地域シンクタンク

28 市町村の元気印

30 自 治 Q & A

33 市町村調査研究事業

36 がんばっていま～す。

38 はつらつ!!市町村職員

40 市町村振興協会たより

時の人

編集後記

■表紙写真　春の新府桃源郷

韮崎市の桃の産地「新府桃源郷」では春になるとたくさんの桃の花が咲き誇ります。そこに、畑の菜の花が彩りを加え、桃色と黄色のコントラストが春の訪れを感じさせてくれます。
毎年、春に開催する武田の里ウォークにはたくさんの方が参加し、春色に染まる風景を楽しんでいます。【韮崎市提供】

心豊かに安心して暮らせる丹波山村の実現に向けて

船木 良教 丹波山村長

道の駅たばやま

丹波山村は、山梨県の東北部に位置し、東京都と山梨県の県境にあり、村全体が秩父多摩甲斐国立公園内に位置しています。

村の周囲は、雲取山、飛龍山、大菩薩嶺を始めとする2000m級の山々に囲まれ、そこを源とする清流が多摩川の源流となる丹波川に集まり、東京都民の貴重な水源である奥多摩湖にそそいでいます。

村の97%は山林ですが、70%が東京都の水源かん養保安林であることから、水質保全のため十分な管理が施されています。

村の歴史は古く、縄文時代から古墳時代にかけての遺跡が多く見つかっており、山間地でありながら中央とつながる街道が村の中心を通っていることから、奈良時代には京文化の影響を受け、戦国時代には、武田の金山の拠点として、江戸時代には、甲州裏街道の宿場として栄え、戦後は、青梅街道としてつながったことから東京方面から多くの観光客が訪れるようになっています。

しかし、現在は、中山間地特有の「人口減少」、「少子高齢化」、「基幹産業の衰退」といった課題に直面しております。

村の人口は、平成31年1月5日現在559人で、関東で一番小さな村となっており、特に、村の中心部の空洞化は顕著で、150件ほどある家屋の半数が空き家という状況になっています。

そのような現状を抱えつつも、どこにも負けない教育環境を創設し、すべての人が心豊かに、笑顔で暮らせる村づくりを進めることを目標に様々な施策に取り組むこととしました。

総合戦略検討委員会及び未来会議の設置

このためには、数少ない役場職員や地域おこし協力隊が一丸となって、将来に向けての夢や希望を語り合える場が必要と考え、メンバーを募ったところ、職員25人中8人と協力隊員8人中3人か

船木 良教（丹波山村長）

PROFILE

昭和27年5月11日生まれ(66歳)
中央大学大学院経済学研究科卒
平成11年 5月 羽村市議会議員就任
平成21年 5月 羽村市議会議長就任
平成29年 5月 丹波山村長就任

ら応募があり、平成30年4月に副村長をリーダーとする「丹波山村総合戦略検討委員会」を設置しました。

委員会は、課の垣根を越えた組織とし、ふるさと納税増税対策、特産品の検討、新庁舎建設及び周辺の再整備などの検討を行うこととしました。

システムや返礼品を見直したふるさと納税は、平成29年92万円の納税額だったものが、平成30年は、5倍の460万円となりました。

特産品として10月から販売を開始した「雲取山」、「飛龍山」、「大菩薩」の3銘柄の日本酒は、3か月で1000本を売り上げ、丹波山村出身の清里・萌え木の村代表の舩木上次氏の応援で10月から販売を開始した3種類（デュンケル、ラガー、ピルスナー）の「丹波山ビール」も2ヶ月で600本を売り上げることができ、ふるさと納税の返礼品としても主力商品となっています。

平成31年度は、村の特産品であるジャガイモを原料とした、ビールと焼酎を作ることとしておりますが、ビールは、清里・萌木の村で世界一の称号を持ったブルワーに製造していただくことに、焼酎は、鹿児島県の焼酎の蔵元で、古式甕仕込みで製造していただくことが決定しており、新たな特産品の誕生を心待ちにしております。

村の特産品　百名山ラベル日本酒

「総合戦略検討委員会」設置の3か月後の7月には、村の内外から有識者を募り、「丹波山村未来会議」を設置しました。

未来会議は、村長が議長となり、様々な分野の有識者、県職員、村民、議員13人で構成されました。

会議は、村の様々な財産の活用方法、観光施策、課題の解決策、新たな魅力の発掘等を新たな視点で捉えていただき、自由で柔軟な発想で語っていただくとともに、総合戦略検討委員会とのキャッチボールを行いながら、そこからの提案を今後の施策につなげて行こうと考えています。

丹波山村未来会議

新庁舎建設及び周辺再整備

昭和46年に建設された現在の庁舎は、築47年が経過し、耐震診断の結果震度6以上の地震の震動及び衝撃に対して、倒壊又は崩壊する危険があるとされています。

このため、村民が安全で安心して暮らしていくために、その拠点として親しまれ、時代に合わせて変化しながら長く使い続けられる新庁舎を建設することとしました。

建設場所は、空洞化が進む村の中心部とし、その周辺の再整備も行うこととしておりますが、今後は、村民はもとより、総合戦略検討委員会及び未来会議からの様々な意見を取り入れ、平成34年4月運用開始を目指しております。

このように、村では、内外の様々な力をお借りしながら、「村民が心豊かに安心して暮らせる丹波山村の実現」を目指したまちづくりを進めております。

丹波地区（庁舎建設予定地周辺）

市町村リレー

まちづくり夢づくり

富士河口湖町 41

MACHIZUKURI YUMEZUKURI

～霊峰富士の懐に抱かれた命きらめくまち　富士河口湖町～

春の富士山と河口湖

富士河口湖町は、日本のシンボルである霊峰富士の北側に位置しており、その裾野に展開する青木ヶ原樹海や富士ヶ嶺高原、富士五湖のうち河口湖、西湖、精進湖、本栖湖と特徴の異なった４つの湖を有し、ほぼ全域が富士箱根伊豆国立公園区域に指定されている町です。町内のいたるところから秀麗な富士山が眺望でき、豊かな自然が織り成す四季折々の独特な風景は日本でも屈指の美しい景観を形成しています。

また、本町は首都圏１００km圏内に位置し、中央自動車道（河口湖ＩＣ）及び東富士五湖道路から東名高速道路に結ばれるとともに、河口湖駅を起点としてＪＲ中央本線大月駅とを結ぶ富士急行線や高速バス路線の運行など、広域的な交通アクセスに恵まれ、国内外から多くの人々が訪れる町となっています。

平成25年には富士山が世界文化遺産

に登録され、8つの構成資産・構成要素を抱える本町は世界遺産の保全や普及・啓発活動などにおいて中心的な存在となっています。

平成15年11月15日に旧河口湖町・旧勝山村・旧足和田村の合併により富士河口湖町となり、平成18年3月1日に富士河口湖町・旧上九一色村南部地区（精進・本栖・富士ヶ嶺）との合併により、現在の富士河口湖町となりました。

観光をまちづくりの軸として

世界文化遺産となった富士山をはじめ、河口湖、西湖、精進湖、本栖湖という4つの湖を持つ本町は、日本有数の観光地であり、日本はもちろん、世界各国からも年間を通して多くの観光客が訪れる国際観光都市です。

本町では、富士登山の拠点として古くから栄えてきた歴史的背景や、首都圏とのアクセスが抜群に良い観光保養地として発展してきた経緯などを踏まえ、平成元年から、「五感文化構想」と「フィールド・ミュージアム構想」に基づく観光まちづくりを進めてきました。河口湖美術館やフィールドセンター、ステラシアター、さらには温泉の掘削など、観光の拠点となるさまざまな施設を整備するとともに、河口湖ハーブフェスティバルやレトロバスの運行、ネイチャーガイドツアーといったソフト戦略も次々と打ち出し、富士山に頼らない魅力づくりに努めました。

そして、平成19年1月、観光を国づくりの軸として位置づけた「観光立国推進基本法」が施行されると、本町も同年3月、全国に先駆けて「富士河口湖町観光立町推進条例」を制定。以来、現在に至るまで、同条例によって明文化された理念のもと、観光立町の実現を目指し、1）活力ある地域づくり、2）本町経済の持続的発展、3）町民生活の向上を目指した取り組みを持続し続けるという、3つの目標に向かってさまざまな施策を総合的かつ計画的に推進しています。

河口湖ハーブフェスティバル

優れた自然と、生活・文化が調和した魅力ある景観を守りつなげる

本町では、富士山と湖水の眺望、豊かな自然、地域固有の景観を維持・保全し、良好な景観づくりを進めていくため平成25年に富士河口湖町景観計画を策定いたしました。

この中で、町域を大きく3つの景観形成地域に分け、地域ごとの特性に応じた建築や開発等を行う際に守るべき事項（行為の届出と景観形成基準の遵守）を定め、町民、観光客、事業者、行政がお互いに手を携えて一歩一歩着実に事業を進めています。

今後も、本町のかけがえのない美しい景観に誇りと愛着をもち、次代を担う子どもたちに引き継いでいくために良好な景観の維持に努めていきます。

子どもを産み、育てることに優しい環境づくり

全国的に少子化が進むなか、本町の出生率は増加傾向にあります。これは大変喜ばしいことです。今後もこうした傾向が続いていくよう、町では、妊娠・出産・子育てと切れ目のない支援を行っています。

不妊治療費を助成する「ようこそ赤ちゃん事業」では、第一子に加え第二子以降や男性の治療、さらには不育症

についても助成対象とし、妊娠を望むカップルの支援をしています。一方、子育て世代に対しては、町独自の算定方法による保育料の算定や、保育所給食費の無料化を実施するなど、負担軽減に努めています。また、医療費についても、高校を卒業するまでの窓口無料化を実施しています。

平成27年、町はスイス　ツェルマット村と友好都市協定を締結しました。これを受け、同村との間での交換留学をはじめ幅広い国際交流事業を展開するとともに、町内にある健康科学大学や富士河口湖高校との連携も強化して、時代と地域のニーズを踏まえたグローバル人材の育成にも注力していきます。

スイス　ツェルマット村との交流

誰もが楽しめ、生きがいにつながる、自由な「学び」の提供

クラブ富士山 ヨガ教室

町では、それぞれの年代や価値観に応じて自由に学べるよう、さまざまな機会を提供しています。活動の拠点となっているのは各地区に設けられた公民館です。年間を通じて、囲碁・将棋、手芸・工芸、歴史・文化など、多岐にわたる講座や大会、講演会等が開催され、多くの町民が気軽に学び、交流を楽しむとともに、例年秋には日ごろの活動の成果を発表する、「公民館まつり」も開催されます。

また、総合型地域スポーツクラブ「クラブ富士山」との連携により、健康増進につながる多彩なスポーツ教室も開講しており、子どもから高齢者まで、幅広い年代の町民がヨガやダンス、体操などを楽しんでいます。

一方、町の歴史や文化財などについては、町内在住の識者による広報誌への寄稿や、ケーブルテレビとの連携によるテレビ番組の制作・放映といった形で、普及と啓蒙を続けています。中央公民館が1年間にわたって開催する「世界遺産富士山講座」に多くの町民が参加するなど、「学び」への意識も高まっています。

各地区での公民館活動は、新たなコミュニティを創造し、核家族化やライフスタイルの変化によって希薄になった地域社会を再構築することにつながります。町では、今後も公民館活動を支援するとともに、学んだ知識や得た技術を社会に還元できるような新たな仕組みづくりにも取り組んでいきます。

子ども未来創造館

魅力あるまちづくりを進め、定住・二地域居住を促進

近年、都会生活者のなかに、田舎暮らしに憧れを抱いたり、実際に田舎への移住を考えたりしている人が増えています。そうした人々にとって、富士山の麓に位置し、豊かな自然があり、首都圏からのアクセスも抜群に良い本町は、とても魅力的な場所であるはずです。

町では、未来にわたる人口ビジョンのもと、「まち ひと しごと 総合戦略」を策定し、これまで以上に魅力あるまちづくりを推進していくとともに、町内に住宅を新築・購入する新規転入者には「新築住宅建築等奨励金」を、一定の条件を満たした住宅団地を造成する事業者には「住宅団地造成助成金」を交付する制度も創設し、定住及び二地域居住の促進を図り、町内人口の増加に努めています。

また、まちづくり推進係では移住に関する心配事や支援体制など、移住希望者の相談を随時受け付けており、広報活動やサポート活動も積極的に展開しています。

町のホームページに、わかりやすく親しみやすい「田舎暮らし応援サイト～富士北麓移住物語～」を掲載したり、SNSで町の情報を発信したりしているほか、町民有志による「富士山暮らし応援隊」との協働により、「富士山暮らし1日体験ツアー」や「移住者歓迎パーティー」といったイベントも開催しています。

平成18年に運用開始した空き家バンクには、現在までに130件ほどの登録がありましたが、人気が高く、掲載後1週間で成約済みになる流れも珍しくありません。町では、町民に理解と協力を求め、より多くの物件を紹介できるよう今後も尽力していきます。

施設・練習環境を整え、夏の合宿地として魅力あるまちに

豊かな自然環境や夏でも冷涼な気候、大都市圏からのアクセスの良さといった好条件が整っていることから、富士河口湖町は合宿地、とりわけさまざまなスポーツの夏の合宿地として親しまれてきました。

くぬぎ平スポーツ公園サッカー場

町内には、体育館やグラウンド、テニスコートといったスポーツ・レクリエーション施設が多数あり、また湖畔にはジョギングやウォーキング、サイクリングなどに最適なコースを、湖にはボートやカヌーの練習環境をそれぞれ整えています。なかでも、くぬぎ平スポーツ公園内にあるサッカー場は元ブラジル代表であり、日本代表監督も務めたジーコ氏監修によるもので収容人数は15,000人。サブサッカー場とグラウンドも整備されています。

町では、こうした施設を町民に広く開放したり、各種スポーツ大会を開催したり、スポーツ少年団をはじめとするスポーツクラブの活動を支援したりして、町民のスポーツ振興を図るとともに、施設を活用しての交流会や練習会、全国規模の競技大会などの誘致も積極的に行って、選手や大会関係者およびその家族の来町を促し、町の発展につながる交流人口の増加にも継続的に努めてきました。

また、本年9月のラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックと大きな国際イベントが控えております。町では、この大きなイベントをその後の観光につながる大きなチャンスと捉え、積極的に事前合宿等の誘致を進めております。

図書館が面白くなって来た！自由な発想力で、アイデア勝負！

苦言提言
Kugen Teigen

仁科 幸子
sachiko nishina

大月市立図書館館長
絵本作家、童話作家

私が、大月市立図書館の館長になってから、4年が過ぎようとしている。

私は、絵童話の作家で独立する前は、世界的グラフィックデザイナーの永井一正の元でアートディレクターとして働いていたので、地域活性化を目的とした図書館のプロデュースにはとても興味を持てたけれど、行政の仕組みも何も分からない私を、今思うとよく市長は図書館長に就任させてくださったと思う。

けれど、昨年の春に、「子供の読書活動推進優秀実践図書館」として文部科学大臣賞を受賞させていただけたことは、自分自身でもとても励みになった。

最近とみに、新しい図書館の形を模索するような、既存の枠を超えた多くのユニークな公共図書館が誕生している。

読書離れやSNSの普及で、図書館の形も多様化が必要となって来ているのだ。それは、大きな可能性を秘め、アイデア次第の面白い時代に入ったと思っている。

今までのように静かな空間で、本を読み、資料提供、貸し出しだけしていればいいというような考えは、時代遅れになって来たとも言える。

それより、ワクワクを提供し、図書館に足を運んでもらうことが大事だ。

私が、図書館の館長になったときに一番に思ったのは、図書館が市民にとっての居心地のいい時間を提供する場所、生活の一部になり、図書館に立ち寄ってみようと、本は借りなくても思ってもらえるスペース作りだった。何しろ何しろ、図書館に来てくれなくては何も始まらない。それから本に出会うでも遅くないのだ。

私は、自分の理想の図書館を考え、これをしたら何か言われるだろうとか、マイナスからの発想は止めて、こんな図書館行ってみたい！と思われる自由な発想をすることを心がけた。

まず、図書館が変わった！というイメージを感じてもらいたい。それには、私の得意分野のデザインの力を存分に取り入れることだと思った。

ツキッピーという図書館のキャラクターをデザイン、一般からネーミングも募集した。キャラクターというのは、図書館を身近に感じてもらうには、一番だ。市の広報誌でも、図書館新聞をスタート、私がイラストも描いてデザインしている。

図書館の入り口を入ってすぐに、大きなハッピームーンボードというものを設置した。私の興味のあるアートや話題、地元の人へのインタビューや、写真。私の家のオカメインコのピーちゃんの話、などなど、本を読んでいて疲れた時に、眺めて、クスッと笑ったり、感動したり、心のリフレッシュをしてもらえたらというような気持ちを込めて、ランダムにいろんな話題をちりばめられたボードだ。

図書館にある、美しい大理石の階段は、小さなステップギャラリーとして活用。階段を上る時間を、四季折々のクリエイティブな空間へと変えていった。

私的に大事だったのは、全テーブルに生きた植物を置いたことだ。これは通気の悪い図書館では難しいことだが、枯れたらどんどん植え替えるから～と私の家の多肉植物やハーブを植え替えている。

その結果、市の人口は減り高校もなくなったにも関わらず、16年ぶりに来場者数も増え、私を呼び止めて、「館長さんですか？、図書館がとても楽しくなって、いつかお会いしたらお礼を言いたくて」、「植物に癒されています」、「このボードを見るのが楽しみで」、というような声をかけられるようになった。

東京や上野原、富士吉田、小菅などからも、この図書館が好きで通っているという人もいることは本当に嬉しい。

予算がなくて空っぽになっていた棚には、中を見れない三冊が入った本の福袋のようなラッキーバックを企画したり、個人にスポンサーになってもらって雑誌を購入する雑誌スポンサーのコーナー、市民に先生になってもらっての各スクール。オリジナルのユニークなブックトーク。子どもたちの感性を豊かにする私のワークショップの開催など、何しろ、面白そうだな！、と、みんなに思ってもらえるような企画をどんどん進めていった。

年末には、落合恵子さんの講演も開くことが出来た。

図書館は、本を中心に年齢問わず人々を豊かに生活に潤いをもたらす貴重な家。

けれどその可能性の実現化には、熱い情熱がなければ何も生まれないだろう。

芽が出たばかりの若芽を元気に育てることが出来るよう、瞳を輝かしていたい。